

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年1月20日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770301204
法人名	社会福祉法人 寝屋川聖和福祉会
事業所名	グループホームゆりかご
所在地	寝屋川市香里本通町2-6 (電話) 072-802-4100

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(平成20年12月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	8人
職員数	14人	常勤	2人, 非常勤 12人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	不燃構造 造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	21,500円	
敷金	有() 円 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500円 / 1ヶ月当たり 46,000円				

(4) 利用者の概要 (平成20年12月9日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大寿会病院、早川クリニック、竹内歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族介護の経験者が認知症ケアの必要性を感じ、土地や家屋を提供して設立された民家改造型で1ユニット8名の小規模なホームです。管理者も職員も介護への温かい気持ちを持っており、ケアの工夫や学習への向上心が見られます。開設後5年間、利用者の為に試行錯誤しながら管理者・職員の熱意ある取り組みが、利用者の笑顔や地域との関わりから伝わります。利用者の生活歴や経過記録、健康チェック表など、業務について必要な書式を工夫し、記録に残し、日々のケアに活かしています。地域での利用も視野に入れAED(自動体外式除細動器)をホームに設置しました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)</p> <p>この一年間は日頃の取り組みが、利用者、家族に伝わるよう記録の改善に取り組んできました。利用者の生活歴やできることを把握しケア計画に取り入れ、楽しみに繋がるよう取り組んでいます。今回、改善を行った項目として①金銭出納帳の管理と確認印の徹底②介護計画のアセスメント表を独自に作成し、職員間で情報を共有③ヒヤリ・ハットや会議録などの記録です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価結果を真摯に受け止め、取り組んできました。自己評価の取り組みとして①運営推進会議の定期的な開催 ②職員研修の充実を図る ③外部評価の意義を職員に周知し全員で改善に取り組むことです。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組み状況の報告を行い記録に残しています。家族、市職員、自治会長等が出席し、地域の意見を聞き、サービス向上に向けて取り組んでいます。集中豪雨での災害に対しても地域の問題として話し合い、行政への働きかけなども行なっています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪時には、利用者の様子を伝え、意向を聴取し介護計画へ反映しています。また、意見箱も設置していますが家族との関係が構築できており、直接意見を聞くことが多く、意見等についてはその都度対応しています。敬老会の行事では、家族同士の交流ができました。今後も家族交流の場を設けて運営に意見を反映したいと考えています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や小学校、ふれあいプラザとの交流など積極的に地域へ働きかけを行なっています。また、ホーム内に多目的室を作り、今後は地域交流の場所にしたいと考えています。</p>

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としての尊重・プライバシーの尊厳・ゆっくり、ゆったり・残された力を発揮・家庭的な雰囲気の中で」と5つの理念を掲げ、穏やかに、その人らしく毎日の生活を営めるように配慮しながら社会活動への参加を促しています。理念は、ホーム内にも掲示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者と職員がカンファレンスやミーティング等を通じ話し合い、具体的な実践に向け取り組んでいます。日常ケアの中で、プライバシーに配慮した言葉かけが行われているか等、常に理念の振り返りを行っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	音楽会などの行事は地域へ働きかけ、参加を呼びかけています。ホームの多目的室を増設し、地域での活用も計画しています。ふれあいプラザや自治会との交流を図りながら、少しずつ地域との関係を構築しています。また、地域の学生ボランティアも受け入れており、小学校からは敬老の日には赤飯が届くなど、交流が進んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を踏まえ、具体的な改善に取り組んできました。管理者は外部評価の意義を職員に説明しています。また会議等で自己評価票を職員に周知し、話し合いを行うなど改善に向けて職員全員で取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し記録に残しています。家族、市職員、自治会長等が出席し、ホームの取り組みを伝え、地域の意見を聞き、サービス向上に向けて取り組んでいます。集中豪雨での災害に対しても地域の問題として話し合い、行政への働きかけなども行なっています。利用者も会議に参加できるよう、更に検討することが期待されます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より利用者のより良いケアに向けて、市や保健所への相談を行い、研修会の参加も積極的に行っています。若年性認知症の相談を受けた際も市へ繋いでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	前回の外部評価で示された金銭管理は、金銭出納帳を作成し、家族の来訪時に確認してもらいサインを取得しています。利用者の日々の暮らしについては、利用者の様子を個人情報に配慮しながら、インターネット等も活用した通信方法の検討をしていますが、実施には至っていません。家族の面会時には利用者の様子を伝えていきます。家族同士の交流ができてきており、今後も継続が期待されます。	○	定期的に便りを発行し、家族に行事や日々の生活等、利用者の状況を伝えることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少なくとも月に1回程度は、家族の訪問があります。来訪時には、必ず家族の意向を聴取するようにしています。意見箱も設置していますが、家族との関係が構築され、直接意見を聞くことが多く、その都度対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時からの利用者もおり、家族や利用者、職員は馴染みの関係ができています。退職した職員も、ホームに遊びに来るなどしています。職員の異動等、利用者家族と会う機会が少ないため、掲示板などで職員を紹介することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や感染症、誤嚥予防、口腔ケア、AED（自動体外式除細動器）の使用法を含めた救急法など、年6回以上の研修を実施しています。また、事例検討も行っています。研修資料等がありますが、職員周知するための記録の仕方を工夫することが望まれます。また正職員以外の職員も外部研修に参加する機会を増やすことが期待されます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などには加入していませんが、地域包括支援センターや介護保険事業者のネットワーク会議に出席しています。また職員同士の相互交流も行われています。今後も地域ネットワークの構築を目指し、少しずつ活動を広げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はいつでも可能で利用者、家族、ケアマネジャーと一緒に見学に来られる方もいます。1週間の入居体験や入居後もいつでも自宅へ帰ることができる安心感をもってグループホームの入居へと導入しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除、洗濯などできる方は職員と共に行い、餃子作り等は皆で楽しんでいます。職員は利用者の手を握りゆっくり話を聞くなどしています。さらに、利用者のできる機能を見極め、一緒に楽しむ場面を作ることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や嗜好、趣味など、また家族の思いや暮らしの希望が丁寧に記録に残されています。日々の利用者との触れ合いの中で、利用者一人ひとりの思いや、希望をしっかり受け止めています。日常生活の場面で一人ひとりが主人公になれる場面を設定することが期待されます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメントシートを作成し、利用者の思いや家族の意向を把握し、介護計画に反映しています。昨年の外部評価後にシートの改善とともに職員間の情報共有に工夫が見られます。利用者、家族の了承も得ています。	○	介護計画を毎月、項目ごとにモニタリングしています。ただしモニタリングの根拠となる介護記録は、介護計画に沿った内容となるよう検討し、改善することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを実施し、利用者一人ひとりのできることできないことを把握し、情報を共有しています。また、日々のケアカンファレンスを通じ、モニタリングも定期的に行い、それに基づく計画書の見直しがあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のデイサービスへの参加や保育園との交流を積極的に行うことで、入居後もホーム外の人と繋がりを持つようにしています。利用者、家族の要望に応じて通院や外食など法人の車を利用した柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、利用者に適切な医療が受けられるように支援しています。通院支援を積極的に行っていますが、家族のかかわりを明確にし、少人数の職員体制の中で日常のケアの妨げにならないことも重要です。日ごろから利用者、家族と話し合い、支援範囲を明確にすることも必要となります。緊急時の医療機関との連携や認知症の専門医との連携は、どこのグループホームも課題となっていますが、よりよい支援を常に模索しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療行為が必要な場合は、医療機関で対応をする」等、ホームでの終末期の対応方針を定めています。利用者、家族の意向を把握した上で、話し合いをしながらホームのできる範囲についても示しています。	○	入居時のみだけでなく、長期入居で重度化する利用者に対しても定期的にホームのできる範囲を明文化して示すことや定期的に家族と話し合いを行うことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも人権やプライバシーの保護を掲げています。利用者に対する職員の声かけや職員同士の会話なども、プライバシーに対する配慮を感じることができません。今後も、職員規定に則り、退職後の個人情報の扱いや採用時の職員会議での周知が望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩好きな方に同行し、起床時間や入浴も利用者のペースに合わせて支援しています。食事の際の柔軟な対応、職員の都合を優先するのではなく、日中も自由に時間を過ごしています。職員も利用者に合わせて、柔軟に支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は法人で一括購入し配送されています。食材の受け取りを役割として楽しんでいる利用者がいます。献立は栄養バランスが取れ手作りのおいしい食事になっています。利用者が皆で具材を皮に包み、焼いた手作り餃子が食卓にのぼることもあります。食事は楽しみとともに一日の大切な活動であり、常に利用者と共に食事を楽しむ工夫を今後も期待いたします。また、食材やおやつの購入から食事の過程を楽しむことができるよう、機会を増やすことが望まれます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は2日に1回の入浴ですが、希望すれば毎日でも可能です。入浴時間も夕方にゆっくり入浴できるようしており、利用者一人ひとりの希望に合わせた対応をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬり絵やちぎり絵を楽しむ作品を展示することで、張り合いに繋がっています。利用者の飼っていた犬をホームで引き取り、餌やりや散歩に出かけるなど、入居前からの生活を継続しています。訪問時、リビングを中心に過ごす利用者が多く見受けられました。電車や町並みの見える増築された新しい部屋や庭、空間を利用し、張りのある生活や楽しみにつながる取り組みが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場は天気や体調に合わせて外出が難しい日もありますが、可能な限り散歩や外出支援をしたいとの思いが伝わります。中庭があり、外気浴を楽しむことができます。少なくとも週1回以上の外出を保証しています。同法人のデイサービスの参加は、利用者の気分転換になっており、近隣のスーパーや外食に出かける機会も作っています。日常的な、外出支援が期待されます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーアラームを設置し、日中は開錠しています。職員は、鍵を掛けることの弊害を認識しており、玄関のアラームで察知しながら、利用者の自由な暮らしを提供しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に、昼夜を問わず避難できるように利用者也参加し訓練を行なっています。運営推進会議でも自治会等と話し合い、治水対策について市へ意見書を提出しています。災害に備えて、水やレトルト食品など非常食品の備蓄もしています。	○	ホームでの消防訓練を年2回実施し、少なくとも1回は消防署に協力を得て、消火器の利用方法や避難訓練など、ホーム内で取り組んでいる防災の点検を受けることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩やカロリーを意識し、豊富な食事メニューからバランスのとれた食事の提供が伺えます。体重を定期的に測定し肥満にならないように気をつけています。食事量、水分も一日を通じて確保し記録に残しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造したホームですが、廊下も広く安全面や自立を考慮し手摺や段差解消など、利用者が暮らしやすいよう改造しています。リビングは、日当たりも良く利用者の交流の場となっています。中庭に新しく増築した部屋からは電車や車、行き交う人を眺めることができ、生活を感じることができます。中庭には物干しがあり、洗濯物を干したり、テーブル等が置かれ、外気に触れ、ゆっくり過ごす空間となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>新しい家屋を改造した居室はフローリングになっており、清潔で明るく木製のベッドやタンスが備え付けられています。個室は、家族の来訪時もゆっくり過ごせる空間となっています。テレビや椅子テーブルなど持ち込みは自由です。写真やぬいぐるみを飾るなど利用者に合わせた部屋作りを支援しています。家具の持ち込みや馴染みのものが少ない利用者もいます。家具を処分して入居した利用者もいますが、入居前に利用者宅を訪問し、自宅にある馴染みの物を利用者や家族と話し合い、利用者一人ひとりの生活に合わせた空間作りが期待されます。</p>		